



# 神戸医協ニュース

550

2010. 4. 1

発行／神戸医師協同組合 発行人／小柴 孝夫 〒651-0067 神戸市中央区神若通3-2-15 電話(078)241-8991(代) <http://www.kobe-ishikyoo.or.jp>

## ITの功罪

監事 山川 雅義

近年のIT革新は目覚ましいものがあり、その応用範囲はきわめて広く途轍も無い計算や宇宙船の制禦はもちろん、日常使用する自動車や家電製品にまで浸透しています。また、各種情報の記録や迅速な伝達・保存などでも威力を発揮し、現代社会における頼もしいツールと言えます。

医療分野でも、レセコンに始まり多数の医療機器がITの恩恵に与っていて、まさに、IT文明（あえて文化とは言いません）の発達や恐るべしであります。

しかし、この発展を“化石人間”である私は忌々しい思いで眺めています。それは、過去の映像記録や再生に関する展開で不快な体験をしたからです。ビデオテープでのVHSやベータはどうなりましたか？レーザーディスクは短期間で消え、今やCDからDVDやブルーレイディスクの時代になっています。こうしてVHSやベータ、レーザーディスクのソフトはほぼすべてがゴミと化しました。

コンピュータでも同じことが起らないか心配です。レセコンでも、使用期間が5年を過ぎる頃になると「いつ爆発する（機能不全に陥る）かも知れません…」と言って新しい機種を購入を勧められたことがありました。この間、バージョンアップと称したり診療報酬改定の度に高額な費用を払い続けたのにです。

という訳でもありませんが、未だに“紙文化”の良さを感じ、その信頼性を礼賛しているのは私だけかも知れません。紙の起源をパピルスとするならば、紀元前30世紀頃より使用されていたということですから、その歴史は相当なものです。人類の知識や技術を記録し伝承し続けることができたのも、紙という比較的安定な素材に筆記・印刷という単純で永続性が具わった方式で記録が残されたからでありましょう。保管状況を考慮すれば、(半)永久的な保存が可能であり、記録の読み取りは、人の眼で見ることだけです。これこそ、“一目瞭然”であります。

現行の電子媒体にこのような永続性を求めてもよいのでしょうか。その保全や管理・運用を含めて一抹の不安を禁じ得ません。

かつて、わが国が他国にくらべ後れているITを発展させようと国会で議論されたことがありました。当時の首相がITのことを「イットとは何だ？」と質問して失笑を買ったのを覚えています。今になって思えば、少し微笑ましい気がします。

### 組合員の加入・退会・名義変更 手続停止のお知らせ

神戸医師協同組合では第53期決算のため、総代会終了の日まで組合員の加入・退会・名義変更の手続を停止いたします。

### 紙上フォト・ギャラリー

#### 天神山公園の桜

横に大きく伸びた桜。近年は折れて子供等がケガをしてはと心配して、枝を支えるそえ木が立った。それでも大きくて立派な桜である。

撮影／岡野 安雅（神戸市東灘区）

